

第77回 学術講演会

日時

令和元年 12月5日(木)
午後6時～8時10分

場所

名古屋マリオットアソシアホテル
16階「タワーズボールルーム」

血友病治療の 今とこれからを考える

代表世話人・座長

名古屋第二赤十字病院 名誉院長
愛知医療学院短期大学 学長

石川 清 先生

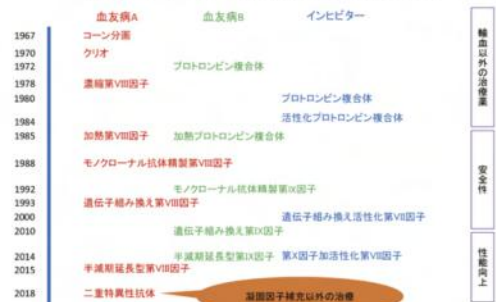
講演Ⅰ.

「血友病治療の現状と 診療ネットワークの構築」

三重大学医学部附属病院助教
輸血・細胞治療部 副部長
一般社団法人ヘモフィリア友の会
全国ネットワーク代表理事

松本 剛史 先生

わが国の血友病治療薬史



講演Ⅱ.

「血友病治療薬の管理と 患者ケアの実態」

医療法人財団荻窪病院薬剤科長

吉見 猛 先生

最先端テクノロジーによる患者さままでの 血友病薬の最適管理

血友病薬は、最も管理の難しい医薬品の一つ



品質管理, 在庫ロスの低減, トレーサビリティ, 地域連携によるメーカーから卸, 医療機関, 患者までのメリット

後援 / 愛知県医師会

この講演会は、日本医師会生涯教育認定講座2単位が取得できます。
カリキュラムコード：4(医師-患者関係とコミュニケーション)、7(医療の質と安全)

講演I：
「血友病治療の現状と
診療ネットワークの構築」

三重大学医学部附属病院 助教
輸血・細胞治療部 副部長
一般社団法人ヘモフィリア友の会
全国ネットワーク代表理事

松本 剛史 先生



講演II：
「血友病治療薬の管理と
患者ケアの実態」

医療法人財団荻窪病院
薬剤科長

吉見 猛 先生



プロフィール

1997年3月 山口大学医学部医学科 卒業
1998年5月 三重大学医学部附属病院 研修医
1999年6月 総合病院松阪市民病院 研修医
2000年6月 亀山回生病院 内科 医員
2001年4月 三重大学大学院医学研究科 入学
2005年4月 日下病院 内科 医員
2006年12月 三重大学大学院医学系研究科 修了
2007年4月 三重大学医学部附属病院 血液内科 医員
2008年4月 三重大学医学部附属病院 輸血部 医員
2008年6月 三重大学医学部附属病院 輸血部 助教
2008年12月 三重大学医学部附属病院 輸血部 助教・副部長
2017年10月 三重大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部 助教・
副部長(部署名変更)
現在に至る

所属学会：

日本輸血細胞治療学会(評議員・認定医)
日本血栓止血学会(代議員 認定医 血友病部会員 DIC部会員)
日本血液学会(認定専門医・指導医)
日本エイズ学会(認定医・指導医)
日本内科学会(認定内科医)
日本臨床検査医学会
日本検査血液学会
国際血栓止血学会(ISTH)
世界血友病連盟(WFH)

社会活動：

(一社)ヘモフィリア友の会全国ネットワーク 代表理事 2017年8月より
厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 血液事業部会運営委員会委員
2019年2月より

1993年3月 昭和薬科大学 薬学部 生物薬学科 卒業
1995年3月 昭和薬科大学 大学院薬学研究所修士課程 修了
1995年3月 日本赤十字社医療センター薬剤部 入職
2005年4月 日本赤十字社医療センター薬剤部 調剤課第二調剤係長
2007年4月 日本赤十字社医療センター薬剤部 薬事管理課麻薬管理係長
2011年4月 日本赤十字社医療センター薬剤部 薬剤部医薬品情報課
医薬品情報係長
2013年4月 日本赤十字社医療センター薬剤部 製剤課長
2015年8月 日本赤十字社医療センター薬剤部 退職
2015年9月 医療法人財団 荻窪病院 薬剤科 入職(薬剤科長代理)
2016年1月 医療法人財団 荻窪病院 薬剤科 薬剤科長
現在に至る

資格：

1993年6月 薬剤師免許取得
2005年11月 日本薬剤師研修センター認定薬剤師認定
2007年2月 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士
認定
2008年4月 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師認定
2011年4月 スポーツファーマシスト認定
2016年2月 日本静脈経腸栄養学会 学術評議員

「血友病治療の現状と診療ネットワークの構築」

三重大学医学部附属病院 助教
輸血・細胞治療部 副部長
一般社団法人ヘモフィリア友の会
全国ネットワーク代表理事

松本 剛史

近年、希少疾病における治療薬の研究開発が進み、そのひとつである血友病の治療も目覚ましい進化を遂げ、患者にライフスタイルや体調変化に応じた多様な治療の選択肢を提供できる新たなステージを迎えている。

一方、薬剤の高額化による医療費助成の制度下での医療経済への影響や、患者自身の居宅における薬剤の適正管理、患者寿命の延伸に伴う生活習慣病等の他疾患との包括的な診療体制の構築などの新たな課題が生じている。

特に、専門医に限られる現状での非専門医や保険薬局との連携など、各地域における診療ネットワークの重要性が増している。また、薬剤希少性が高く国内の流通量が少ない薬剤が多いことから、患者会の視点からも近年増加している大規模災害などの有事における薬剤の入手が課題となっている。

本セミナーでは、血友病治療の歴史や病態をはじめ、これらの課題解決に向けた血友病の診療ネットワークの構築に関する取組みについて、

諸外国の事例も交えながら医師と患者会の立場からご紹介する。血友病のみならず、希少性の高い疾患におけるこれからの患者ケアの一助となれば幸いである。

「血友病治療薬の管理と患者ケアの実態」

医療法人財団 荻窪病院
薬剤科 科長

吉見 猛

血友病治療薬や分子標的薬は高価であり、不良在庫が原因で廃棄することは避けなければなりません。廃棄を避けるための手段として使用見込みがない医薬品を返品する方法がありますが、ほとんどの血友病治療薬や分子標的薬は冷所保存が義務付けられていて、一度入荷すると、その後卸へ返品できないことになっています。これは先述した医薬品に限らず、冷所保存が義務付けられている全ての医薬品は入荷後返品ができず、在庫管理上の課題だと考えます。

使用予定を把握して入荷すれば不良在庫を避けることが可能ですが、治療方針の変更などで使用予定であった医薬品が使用中止となり、他の患者への使用見込みがなく使用期限切れまで保冷庫に保管し結局廃棄した事例や、診察後、急遽使用する場合に備えて普段はほとんど使用しない医薬品を保管した結果、使用期限切れで廃棄となった事例の経験をお持ちの方が少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか。

患者のことを考えれば止むを得ないことですが、医療資源の損失や病院経営への影響を考慮すると医薬品を廃棄することは避けたいことです。

室温保存が義務付けられている医薬品であれば、包装変更や使用期限等に注意すれば返品が可能となることが多いため、冷所保存が義務付けられている医薬品も返品可能扱いにならないか長年悩んでいました。

当院薬剤科は血友病治療薬の取扱量が多く、使用期限切れで廃棄することになった場合の損失が高額になるため、その管理に労力を費やしています。そこで、業務効率化対策としてIoT (Internet of Things) を活用した在庫管理システムを導入しました。システムの利点は、冷所保存が義務付けられている医薬品が返品可能になること、医薬品発注や入荷時の検品入庫など医薬品管理業務の軽減につながること、紛失防止などのセキュリティ管理に役立つことなどが挙げられると思います。

今回、新システムを導入したことでどのような効果があったのか、見えてきた課題は何なのか、今後の医薬品管理に対してどのような貢献ができるのかなど、導入後の経験を基にお伝えしたいと思います。また、国内有数の血友病患者数を持つ施設に於ける薬剤科としての取り組みも合わせてご紹介させていただきます。